2025年４月20日発行

大町山岳博物館友の会　第 202 号

ゆきつばき通信

行事のご案内（友の会主催事業）

博物ハイキング - 大峰山西麓編

大町市と池田町境の大峰山の西麓で自然観察会、学習会を行います。麓には千国街道が通り、これに直交して大峰の東を結ぶ古道があります。今回は、仁科神明宮を出発点として南の尾根をたどって大峰山の中腹まで行きます。

野鳥、植物、雪形、地形地質、民俗など参加者の得意なところで皆さんに解説いただければと思います。

神明宮南尾根の古道

《期　　日》　5月11日（日）　午前８時～正午　小雨決行
《場　　所》　仁科神明宮 ⇔ 大峰中腹　（集合仁科神明宮駐車場　８時）
《対　　象》　子ども～大人（半日程度の山歩きの体力）
《募集人員》　会員　15名　（定員になり次第、締め切り）
《講　　師》　募集中(みんなで)
《参 加 費》　無料
《持 ち 物》　筆記用具、雨具、防寒具、帽子、観察道具（図鑑、双眼鏡などある方;貸し出しもできます）、行動食、飲み物、敷物（ビニールシートなど）、足回り等は軽登山の用意で。
《申し込み》　４月22日（火）から５月６日（火）
電話・FAXまたは直接、友の会事務局へ
（Tel/Fax0261-23-6334）
《当日連絡》　090-1217-9197（丸山卓哉　担当役員）

博物館よりお知らせ・・・

付属園まつり

今年も「付属園まつり」を開催いたします！

4つのイベントを通して、みなさまに付属園（動植物園）と飼育動物・栽培植物を身近に感じていただくとともに、傷ついた動物たちの救護など、付属園の役割について知っていただければ幸いです。参加は、すべて無料です！

★『**動植物観察ツアー**』　当日、開始時間に付属園にお越しください。（30分程度）

動物のお話　5月3日（土・祝）14時30分～、5月4日（日・祝）14時30分～、5月5日（月・祝）10時30分～、14時30分～

植物のお話　5月4日（日・祝）10時30分～

★『**おおまぴょんとあそぼう！**』　当日、開始時間に付属園にお越しください。

5月3日（土・祝）　時間:15時00分～（30分程度）

4日（日・祝）～5日（月・祝）　時間:11時00分～、15時00分～（30分程度）

★『**クイズ＆スタンプラリー**』　当日博物館受付にお越しください。（ボランティアメンバーが受付をしています）

5月3日（土・祝）～5月6日（火・振）　時間：9時～16時

★『**ライチョウガイド**』　当日、開催時間内に付属園ライチョウ舎にお越しください。（ボランティアメンバーが解説をしています）

5月3日（土・祝）～5月6日（火・振）　時間：9時～16時

※動植物観察ツアー、おおまぴょんとあそぼう、クイズ＆スタンプラリーは雨天中止

企画展　**小学校の生きもの探索記**　特別展示室　５月１０日(土)まで

大町市内小学校での生き物の調査の報告です。全体に自然は豊かな大町ですが、各学校の環境の違いも見られます。学校の先生にとっては指導のヒントとなり、子供たちには興味をもって博物館に出かけてもらえればという狙いもあるということです。

期間中、展示室でのミュージアムガイド(申し込み不要)や小学校でのゼミナール(申し込み必要)も行われます。詳しくは、ホームページからリーフレットをごらんください。

報　告　　『大町の火山灰を見る』

《期　日》2 月 24 日（月・振休）　10 時～16 時
《場　所》午前　大町射撃場の掘割　/　午後　大町山岳博物館講堂
《天　候》晴れ
《講　師》大町山岳博物館　竹村健一専門員
《参加者》11 名（講師・役員 3 名含む）

たっぷりの雪が降ったこの冬ですが（雪の企画の時には降らない）、露頭（対象の地質が地表に出て観察できるところ）の近くまで除雪が入っていて、スノーシューでのアプローチは空振りでした。

今回の行事は、2025 年秋に予定されている山博企画展「大町にも火山灰が降った?!」の先取りで、より理解を深めることと、あわよくば現地見学会のお手伝いができればというものでもありました。

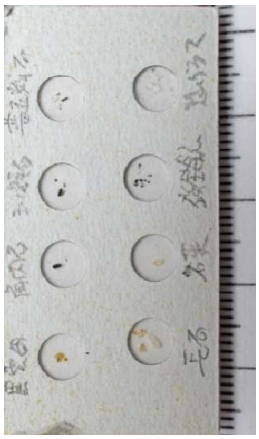
旧大町スキー場、長野-大町線の中山高原などで「赤土」の小さな崖があるのを見たことがあるでしょうか?地形に沿ったような地層の重なりが見られたり、泥や砂の様でいて崩れずにいる崖を。これらは、大町の西方の山から偏西風に流されて運ばれてきた火山灰や、火山の活動が無いときには土ぼこりなどが積もったものです。

火山から噴出した火山灰や軽石の堆積を「テフラ」といっています。その中には、九州などで噴出して日本中に堆積したものもあります。ほぼ同時に堆積するので、地層中のタイムマークとなります。大町テフラは下の方には槍ヶ岳の近くの樅沢岳を起源とした火山灰（30 万年前）、その上に何層かの立山起源の火山灰（10 万～5 万年前）、そして、大山倉吉（だい

せんくらよし)からの火山灰(5.5 万年前)、鹿児島姶良(あいら;鹿児島湾)からの火山灰(3 万年前)が重なっています。

竹村先生に地層に火山灰層の名前のプレートを付けていただき、火山灰を採取しました。露頭には斜めに道路が通っているので、あまりよじ登らなくても下の火山灰から上の火山灰まで採取できます。ほとんどの方はすべての火山灰を採取しました。また、各火山灰の顔つきの違いも観察しました。

午後は山博の講堂で採取した火山灰を洗って濁る泥を流して(“わんがけ”という)実体顕微鏡で観察をしました。テキストもありましたが、竹村先生の黒板の説明書きが、授業の様で楽しかった。筆先などで鉱物(右下写真の粒粒;ほぼ実物大)を拾い出すのは実に細かいミリ単位の仕事で、生徒たちは1時間以上も黙々と集中するという、友の会らしからぬ作業となりました。　　(担当役員　丸山卓哉　記)



報　告　　令和 7 年度総会記念講演会　共催　大町山岳博物館

『見たことのないハナバチの世界 ―安曇平のハナバチ調査―』

《期　日》4 月 13 日（日）午後 1 時 30 分～3 時 30 分
《場　所》山岳博物館 講堂
《講　師》腰原正己先生　(友の会会員、元小学校理科教諭)
《参加者》42 名

小鳥の声を聞く会や観察会でお世話になっている腰原正己先生にハナバチのお話をしていただき、その道のプロではなくても市民が参加して活動を行っていくシチズンサイエンス(市民科学)について友の会の活動も紹介した。

腰原先生からは、古生物として昆虫がエビの仲間から発達し、変態しないもの(シミなど)、不完全な変態をするもの(トンボなど)、完全に変態するもの(ハチやチョウなど、さなぎの中でほとんど溶ける)と進化してきたこと、分子生物学の時代になって DNA でその歴史がわかるようになったといったことを導入として説明いただいた。ハナバチは中生代白亜紀にルーツがあり、植物食から肉食、花粉・蜜食と進化してきたという。

先生は観察のためにハチを写真撮影されるが、網で捕まえたハチを冷蔵庫で冷やすとほとんど動けなくなり、さらに保冷剤を下に敷いて撮影されるとのこと。

ハナバチにはミツバチ、クマバチ、マルハナバチなどがあり、先生は現在までに 51 種が同定され、未同定は 14 という。同定にあたって、図鑑比較はもちろんのこと(新鮮な状態での写真でない場合がある)、顔の縦横比を数値化し同定を試みておられる。

スライドでいろいろなハチの写真を見せていただいたが、顔も角度が違うと別種のように顔つきが変わり面白い。ハチの写真はミツバチやアリとの比較で大きさが示され、わかりやすかった。

ハナバチは果実栽培でも時には人工授粉に代わる役割を果たしてくれる。身近な農地や草原、湿地が失われると生物も減少する。雑草といわれるものでも上手に残していきたいと話された。

休憩の後、友の会の取り組んでいる活動を参加者に紹介したり、館職員からのお話をいただいた。“サークル花めぐり紀行”では湿地植物の生活史を調べたり訪花昆虫の調査、植物標本の作製や整理をしている。山岳文化研究会では北アルプス登山史資料の整理を行ってきた。このほか、千葉学芸員、鈴木名誉館長、竹村専門員、関学芸員から市民が参加している活動や博物館の役割などを紹介いただいた。

(編集担当　記)

報　告

令和７年度山博友の会　総会

《期　日》4 月 13 日（日）
　　午後 4 時 00 分　～　4 時 35 分
《場　所》山岳博物館 講堂
《参加者》28 名　＋ 博物館職員

阿久根さんを議長に議事が進み、報告、計画とも承認されました。

議事に先立ち、宮澤会長からは友の会の歴史に触れて、時代の変化への対応も必要とあいさつされました。牛越新館長からは山岳観光都市、岳のまち大町のこれからの展望が話されました。最後に、長沢顧問からは自然環境の変化に目を向け共生していきたいとお話をいただきました。

報　告　　県環境保全研究所　信州自然講座　２月８日 サンアルプス大町

北アルプスのライチョウをとりまく“今”を知る

雪の降りしきる中、表記の講座が大町市と大町市教育委員会の共催で 100 人近くの参加で開かれた。演題は次の５本で、最後に全体の質疑応答があった。このほか、ロビー展示として「五感で知るライチョウと高山帯調査」「長野県の環境・衛生に関する調査研究」があった。講座は、一般にわかりやすい幅広い内容で良かった。

中部山岳地域の最近の気候変動　　（市立大町山岳博物館 鈴木 啓助）
北アルプス爺ヶ岳周辺の高山植物と植生　　（長野県環境保全研究所 尾関 雅章）
北アルプス爺ヶ岳における GPS ロガーを装着したライチョウの行動圏と利用環境
（長野県環境保全研究所 堀田 昌伸）
令和６年度市立大町山岳博物館におけるニホンライチョウ野生復帰の取り組み
（市立大町山岳博物館 岡本 真緒）
長野県におけるライチョウ保護の取組み　　（長野県自然保護課 坂口龍之介）

報　告　　山のサイエンスカフェ in さんぱく 2025　（友の会協力）

山博学芸員の研究報告会として、3 月 8 日に 28 名の参加で山博講堂で行われた。今年は次の 4 題。

「テフラよもやま話」（専門員　竹村健一）

「農具川に棲む生き物」（学芸員　岡本真緒）

「山に降る雪は減っていない」（名誉館長　鈴木啓助）

「志村寛（号・烏嶺）宛　牧野富太郎筆の書簡」（学芸員　関悟志）

「テフラ」は火山や火山灰の基礎から入って、“大町テフラ”層について先生の研究成果が紹介された。大町テフラは貴重な地質情報であり、今後も授業などで活用していきたいと話された。

「農具川」は仁科三湖につながる比較的安定した環境だが、カワシンジュガイの生態や絶滅の危険性など、動物相の変移について話され、新たな調査の必要性が話された。

「山の雪」は水収支から山の雪の量を推定し、換算すると白いダム（積雪）の貯水量は十分あり、冬の気温によって場所場所での積雪量は変動しているが、上高地の降雪は増えていることが話された。

「志村寛」は 2020 年の企画展（博物学と登山）に関連し、登山史や博物史を振り返り、志村が白馬岳で採集した植物 2 種が牧野によって新種とされたことなど、書簡の画像とともにお話しされた。

全体の議論では市民科学などマンパワーが必要とされ、友の会の関わりの可能性が見えた。

2025 年山博スタッフの紹介（partI）：

博物館に行ったらぜひ事務室をのぞいて声をかけましょう。

名誉館長　鈴木さん：　雪氷の専門家、雪の行事を頼むと雪が降らない　南極観測隊員として南極に行かれた

館長　牛越さん：　今年から専任で着任、やる気満々の頼もしい体育会系ボス（まだ正体不明で、これからが楽しみ）

副館長　千葉さん：　植物部門担当学芸員、付属園の高山植物園の整備を進めている　優しい学者肌の麦わら帽子のお兄さん

降旗さん：　子供のころからの山博オタク　静かに山博を仕切っている　さりげなく特急雷鳥を展示する“鉄”

関さん：　人文部門、山と歴史と民俗の担当学芸員、友の会の世話をしてもらっている　頭脳明晰の頼れる存在、イケメン

岡本さん：　動物部門担当学芸員、小柄だがタフな可愛い若手で、大学でもライチョウを研究して山を駆けていた

竹村さん：　地質部門担当専門員、大町テフラ研究中、野尻湖発掘に長年携わる優しいおいさん先生　　以上、編集部の勝手紹介でした・・・^^;

ボランティアサークル

11 月 10 日(日)に実施した大鹿村「中央構造線博物館」研修のアンケート集計

ボランティア研修の際に記入いただいたアンケートをまとめると、おおよそ以下のようになりました。研修の様子は前号をごらんください。

1　大鹿村中央構造線博物館で印象に残った展示等は

5 名の方が屋外展示の岩石園が印象に残った。河本先生の熱い解説や周辺の地形と合わせた野外展示であったことも良かった。

室内では地形地質のジオラマや北川露頭のはぎ取り標本が多くの方の印象に残った。ジオラマやカーペット、標本の配置が連動していて感覚的に理解しやすかった。

2　行程全体を通して印象に残ったものは

河本先生の２時間たっぷりの解説が良かった人と情報量が多すぎた人がいる。北川露頭がきちんと環境整備された良さもあるが風化が進んでいることが残念に思った。好天に恵まれた中央構造線沿いのルートも良かった。大西崩れの説明などバス内での説明も良かった。

3　ボランティア研修でこれから行ってみたいところ、やってみたいことは

フォッサマグナミュージアムや立山カルデラ砂防博物館、恐竜博物館といった地質系の博物館の興味は高いが、他の分野を望む声、他館の友の会の活動も知りたいという人も。山と人の歴史を学びたい人も。

4　山博のボランティア活動でやりたいことは

空欄も多かったが、館のお手伝いを上げる人も何人か。友の会やボランティア活動の広報をしたい人も。

5　その他山博のボランティア活動で思うところは

博物館から何を望まれているか知りたいという人が何人か。子供や若い人を含めた活動をしたい人も何人か。得意なことを無理なくやっていきたいという声も多い。

博物館展示解説に向けた研修会

活動の少ない冬季にあたって、1 月 26 日に展示解説に向けた研修会を行った。今回は博物館の 2 階(地形地質)、3 階の展示について竹村専門員にお願いした。3 階の立体地図に地質図を重ねて山のでき方や山がどんな地質でできているかを学び、山頂の石の展示を確認した。2 階では大町周辺の地形と地質“岳・野・湖・山”や地球 46 億年の歴史、大町周辺の岩石などを学んだ。大鹿村での南アルプスの形成に対比するものであった。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

サークル近況　～市民科学として活動しています

山岳文化研究会

会の始まりはかつての山の食事を食べてみようと、“ペミカン”を宮野さんに作っていただきました。山小屋の調査では信州大学の梅干野先生が何年にもわたり、山博での例会にてご教示頂きました。その後も山の風俗、習慣、宗教などを歴史的に掘り下げて個々に調査をしています。このごろは槍ケ岳を開山した播隆（ばんりゅう）上人の足跡を巡るツアーなども行っています。

山の文化に関心のある方に参加していただき、興味深い企画ができればと思っています。

花めぐり紀行

大北地区の植物採集をしたり、その標本づくりなどを個人の都合のいい時間でやっています。高山植物のポットの植え替え、高山植物園の整備も千葉副館長の指導の下、行っています。そのほか、湿地植物の観察や、北アルプスの高山植物の観察に出かけることもあります。現在５，６名。植物に興味のある方一緒にやりませんか？

博物館訪問記

福井県年縞（ねんこう）博物館

丸山卓哉

若狭の三方五湖のうち水月湖（すいげつこ）は、湖底での堆積と活断層による沈降がバランスして、何十万年も埋まることなく静かに泥を堆積している。堆積物は季節によって濃さが変わるため、毎年毎年の堆積がバームクーヘンのように縞模様となっていく。これを年縞（ねんこう）といって、それに特化した珍しい博物館である。研究調査は立命館大学と連携している。

年縞は７万年分、45m にわたるボーリングで採取された（その後延長して 16 万年）。全部で３本のボーリングを組み合わせて一連の試料となった。メイン展示はそのボーリングコアを薄く透けるほどにスライスし、上から下まで横倒しにして展示している（部屋が長い!）。

地球の歴史としては最近のものとはいえ、氷河時代もありいろいろな環境変化があった。その間に植生が変われば含まれる花粉が変わり、水温が変われば珪藻の種も変わる。そして紐解いた歴史は世界の標準的なタイムスケールとなっている。

訪れたのは新幹線敦賀開通前の 2023 年 12 月。大町から車はちょっと遠いが、周辺観光の便を考えて車で行った。湖岸の縄文パークの緑地に囲まれたぐんと伸びた博物館はデザインもいい。こんなマニアックな展示に大型バスも到着する。カニも良いがぜひ訪ねたい博物館だ。舞鶴若狭自動車道「三方五湖スマート IC」より車で約 5 分、JR 三方駅からも車で約 5 分程度である。敦賀で車を借りれば 30 分ほどで着く。

会費のご案内

会費の変更はありません。これから納入の方は同封の振込用紙をご利用ください。

- **個人会員 2000 円**
- **ファミリー会員 3000 円**（ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします）

山岳博物館窓口では友の会会費を扱いません。総会以外での納入は振込、振替でお願いします。

ゆうちょ振込振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会

※　賛助会員、学生会員につきましてはお問い合わせください。

※　多く振り込まれた場合は寄付とさせていただきます。返金は行いません。

※　会員証は追って一括発送いたします。到着までは振込受領証をご提示ください。

総会資料訂正

P.5　決算書　収入の部　ファミリー会員 48 名（144,000）→47 名（141,000）
　　会費決算額　292,000→289,000
　　雑収入　　120,040→123,040
　※　会費（ファミリー1 名 3000 円）を寄付に訂正　総額は変わりません

総会資料補足

P.9　予算書　支出の部　購読費　500 円×120 件
　ミュージアムカフェ・ショップかもしかでの購入にあたり、会員一口当たり 500 円の割引をします。購入時に会員証をお示しください。今年度の企画展展示解説書の発行が決まりましたらご案内します。

始まります
信濃毎日新聞大型写真企画
「雷の鳥～次代への軌跡～」

ゆきつばき通信編集室より

新しい年度となって、200 号も過ぎて相変わらずの通信です。この春の行事のご案内と総会の報告などになります。今年度の事業については、総会資料 7 ページ、山と博物館春号の最終ページをごらんください。今号は、いろいろ書きすぎたので、このくらい。

（編集担当：丸山卓哉　投稿先：takuya-m アット juno.ocn.ne.jp）

ゆきつばき通信　第 202 号
発行／大町山岳博物館友の会　　2025 年 4 月 20 日
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334

山博ページ　https://www.omachi-sanpaku.com
友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています